

## Building lifestyle around Ferrari

### マンゾーニさん、本領発揮

誰もが予想しなかったサプライズデビューを果たした、『フェラーリ・ローマ』。  
フラビオ・マンゾーニさん、いよいよ本領発揮? と思出すのは、あのコンセプトモデルだ。

このコラムを書く直前にとある関係者と打ち合わせをしている席で、フェラーリ・ローマの話題となった。その方は実車も見えて、写真から某スポーツカーに似ていると想像した方も多いが実車の印象は全く異なり、見ると皆ノックアウトされる、つまりその美しさにすっかり魅了される……というような話をされていた。いや写真でも十分に魅了されていますが、というのが私の第一印象だが、そこで1台のコンセプトモデルを思い出した。2003年に発表された『ランチア・フルヴィア・コンセプト』である。

その界限では有名な話だが、このフルヴィアをデザインしたのは当時フィアット・グループでデザイナーをしていたフラビオ・マンゾーニさん。そう、現在のフェラーリ・デザインセンターを率いる、マンゾーニさん本人だ。私は個人的に左ハンドルのイタリア車、マニュアルしか購入したことがなく、現在はランチア・イプシロンを日頃のアシにしている。当時はフィアット・バルケッタに乗っていて、コンセプトのデザイン元となった往年のフルヴィア自体も好きなら、このコンセプトがバルケッタをベースとしていたこともあり、実車が出たら絶対に買う! と激しく憧れたのをよく覚えている。周囲の反応もよかったのだが、市販化されなかったのはご存知のとおりだ。

なので、現職にマンゾーニさんが就任後、フルヴィア・コンセプトを描いた方と一致すると知って以来、すっかりファンになってしまった。マンゾーニさんがフェラーリに加入した直後にピニンファリーナ・デザインから社内デザインに切り替わっ

た関係で、正直、彼に対する昔からのフェラーリ・ファンの風当たりは強かったと思う。488GTBで308GTBをイメージしたサイドエアインテークが追加された時に、アグリーだというコメントも実際に目にした。しかしあれが機能的に必要であり、そういった開発現場と近いがゆえに実現したディテールの数々は、個人的には説得力を感じていた。そしてカリフォルニア→カリフォルニアTや、F12ベルリネッタ→812スーパーファストで見せたラインのシンプル化も好感を頂いていた……という話は、何度か誌面でも書いてきた話だ。

これらは歴史であったり概念であったり、デザインにおいてある程度制約があったように思う。しかし彼がイチからデザインしたSP1 / SP2モンツァ、そしてこのローマが持つ"ひと目で恋に落ちるレベル"の美しさはどうだ。その内容とスタイルで未来を見せるSF90ストラダーレとは真逆の位置にある、クルマとしての美しさを追求した、クラシカルでもありモダンもあるシンプルな魅力。イタリアはデザインの国とはよく言ったもので、こういうものが出てくるとはまさに天晴。まさか16年後にフルヴィア・コンセプトの話を書くとは思ってもなかったが、できればご本人に当時の話と合わせて聞いてみたいものだ。



こちらが2003年のランチア・フルヴィア・コンセプト。イラストのサインにマンゾーニさんの名前を発見できる。なおSF90ストラダーレの写真は、10月上旬の日本ローンチ時のもの。

